往生際が悪い官僚の姿を
連日見せつけられて、良識をもつ
人達は心を曇らせているでしょう。
〝いわれの無い〟接待を受けて、超
高級料理をご馳走になることに
氣が咎めなかったのかと思います。
接待を受けたのは仕方のない事と
したとしても、それが違法であると
知っても、暴き出されるまで口を
噤んで知らぬ顔をし通そうと
する姿に卑しさを感じます。
次々と芋蔓式に出て来て、減給
処分を受ける姿は、
〝みっともない〟の一言に尽きます。
日本には〝みっともない、はしたない、
浅ましい〟といった短い一句に無限の
意味を込めて伝える文化があり
ます。短かい一言に無限の意味を
込めて表現した古人の豊かな感性が
ありました。
その言葉から無限の意味を汲みとる
深い感性もありました。
また

これこそが世界に比類の無い
日本の文化と言えます。
しかし、先人・古人が築いた文化が
六十年程の間に失われてしまいました。
皮肉なことに日本人の平均学歴が
高くなるに連れて、文化が失われて
いきました。
学歴が低いか、無い時の方が
文化は親から子へと伝えられ
脈々と保たれて来たのです。
学問をして大切な文化を失うと
すれば、学問の意義が問われます。
この理由は、知性・理性を重視し
感性を疎かにしたことによるもの
です。道理より理屈が優先されて
感性が否定されてきたのです。
何が正しいか よりも どっちが正しいか
で争うようになりました。
私は
日本人にしか無かった豊かな感性と
いう文化を大切に守りたいと思います。
"みっともない文字"で失礼いたします。